

auro

Active Subwoofer

Auro D1200

Auro D1500

Version 1.0



株式会社 サウンドハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3
TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222
<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

記号の説明



感電の危険性があります。カバーを開けないでください。



ユーザーに危険を警告しています。製品内の電圧により、感電の危険性があります。



安全にご使用いただくためにマニュアルの指示に従ってください。

安全上の重要事項

1. 本マニュアルに記載されている全ての警告と指示に従ってください。
2. 本体を水の近くで使用しないでください。
3. 本体を水または液体の中にいれないでください。
4. 本体に直接エアゾールスプレー、クリーナー、消毒剤や殺虫剤を使用しないでください。
5. メンテナンスは乾いた布で拭いてください。
6. 本体の通気口をふさがないように、マニュアルの指示に従って設置してください。
7. 熱源（ラジエーター、ストーブ、アンプ）などの近くに設置しないでください。
8. 安全のため、アース付きプラグを使用してください。プラグのブレードは一方が幅広になっています。アース付きプラグには、2つのブレードとアースピン（グラウンド）が付いています。幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。プラグが上手く挿さらない場合、技術者にコンセントの差し込み口を確認して貰う事をお勧めします。
9. 電源コードは踏まれたり、挟まれる事の無いようにしてください。
10. 電源コードを抜く際は、コードを引っ張らず、プラグ部分を持って引き抜くようにしてください。
11. 製品受領時に外部に損傷（電源ケーブル等を含む）が無いか確認してください。もし製品にダメージがあった場合、ただちに販売店へ連絡してください。修理を行わずに

使用を続けると更なる深刻なダメージを被る恐れがあります。その状況で使用を続けた場合は、保証期間内でも保証外の対応となる場合があります。

12. アクセサリーやパーツは、メーカーが定めた物をご使用ください。
13. 長期間使用しない場合や、雷が発生した時はプラグを抜いてください。
14. 電源周りのトラブルや液体をこぼしてしまった時、高い湿度にさらされた時は、販売店に相談してください。そのまま使用を続けたり、無理に自分で修理を試みないでください。
15. 地域の法律に沿ってご使用ください。
16. 設置について疑問が生じた場合は、販売店に相談してください。

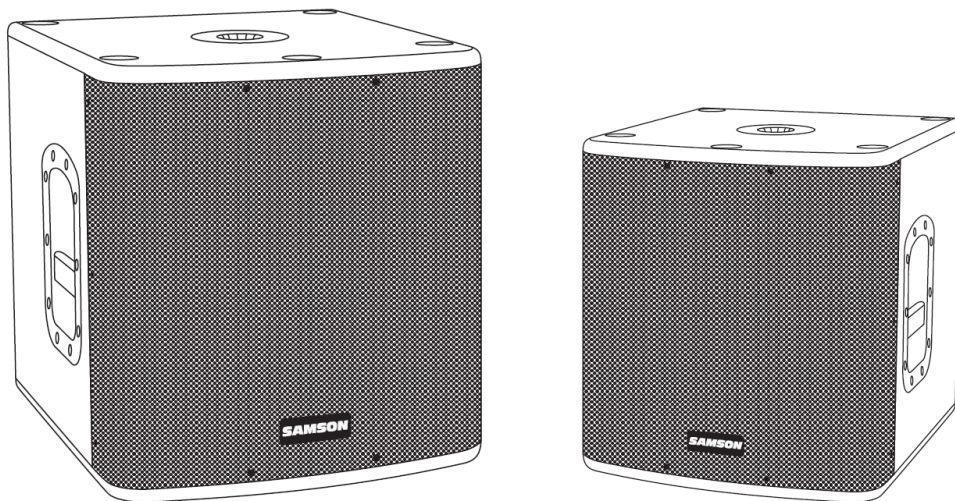
目次

記号の説明.....	2
安全上の重要事項.....	2
はじめに.....	5
主な特徴.....	5
詳細仕様.....	6
クイック・スタート	7
各部の名称.....	8
サブウーハー・モノラル・セッティング.....	11
サブウーハー・ステレオ・セッティング.....	12
ローパスフィルター (LPF)	13
スピーカー極性.....	14

はじめに

この度は、Samson Auro D1200/D1500 をご購入いただき、誠にありがとうございます。Auro D1200 は、12 インチ・ロング・エクスカーション・ドライバーと 700W クラス D パワーアンプを搭載した、コンパクトで高出力のパワード・サブウーハーです。D1500 は 15 インチ大型ウーハー、1000W クラス D パワーアンプを搭載しています。本製品の性能を最大限に発揮させ、末永くお使いいただくため、ご使用になる前に、この取扱説明書を必ずお読みください。

主な特徴



- 耐久性のある 15 インチ (D1500)、12 インチ (D1200) 低域トランスデューサー搭載
- 1000W (D1500)、700W (D1200) クラス D パワーアンプ搭載
- コンボ入力 (バランス XLR/フォン) x 2
- ステレオ・アンバランス RCA 入力 (D1500) x 2
- フルレンジ・スルー出力 (XLR) x 2
- ハイパス・スルー出力 (XLR) x 2 (D1500)
- ローパス・フィルター・コントロール (80Hz - 200Hz)
- DSP コンツアー・コントロール (3 ポジション)
- 位相切替スイッチ
- 大型スチール製ハンドル x 2
- 35mm ポールマウント用ソケット
- 高耐久性スチールグリル
- プレース入り 18mm 合板ボディ
- 高耐久性、黒ポリウレタン塗装

詳細仕様

	Auro D1200	Auro D1500
アンプ出力	700W(クラス D)	1000W(クラス D)
トランスデューサー	12 インチ・ペーパーコーン 2.5 インチ・ボイスコイル	15 インチ・ペーパーコーン 2.5 インチ・ボイスコイル
感度	95dB SPL@1W/1m	91dB SPL@1W/1m
周波数特性	45Hz - 200Hz(±3dB)	40Hz - 200Hz(±3dB)
最大音圧レベル	126dB SPL@1m(700W)	131dB SPL@1m(700W)
クロスオーバー周波数	80Hz - 200Hz@24dB/Oct	
入力	コンボ入力(バランス XLR/フォン)×2	コンボ入力(バランス XLR/フォン)×2 ステレオ・アンバランス RCA 入力×2
出力	フルレンジ・スルー出力(XLR)×2	フルレンジ・スルー出力(XLR)×2 ハイパス・スルー出力(XLR)×2
コントロール	マスターボリューム、DSP スイッチ、フェイズスイッチ、LPF ロータリー	
インジケータLED	Signal、Limiter、Protect	
消費電力	800W(最大)	
電源コネクタ	IEC タイプ	
ヒューズ	T5AH 、AC250V	
電源	AC100V、50 - 60Hz	
寸法(L×W×H)	395×483.5×457mm	450×500×530mm
質量	19kg	24.4kg

クイック・スタート

本製品とサテライトスピーカーを設置

1. 本製品の 35mm ポールマウント用ソケットとスピーカーポールを使用して、サブウーハーの上にサテライトスピーカーをマウントします。
2. 全スピーカーの電源を切り、LEVEL を反時計回り一杯に回します。(図 1)
3. ミキサーや他の音源を LINE INPUT に入力します。
サブウーハー1 台にサテライトスピーカー2 台を接続する場合、音源の出力を本製品のチャンネル A、B に接続します。(図 2)
4. スルー出力からの信号を XLR ケーブルを使用してサテライトスピーカーに接続します。(図 3)
5. 本製品の電源を ON にしてからサテライトスピーカーの電源を ON にします。
6. ミキサーから MP3 プレイヤーなどの音源を使用してミキサー側のレベルをチェックします。
7. サテライトスピーカーのボリュームをゆっくり上げて音量をチェックします。
8. 最後に本製品の LEVEL をゆっくり上げて音量をチェックします。(図 4)

※LIMITER LED が点滅する場合、LED が消灯するまで、またはシグナルピークのときに時々点灯する状態になるまで、LEVEL を下げてください。

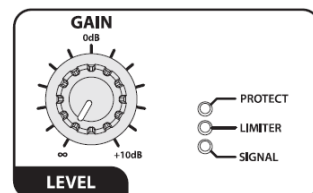


図 1

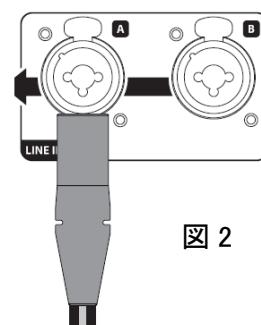


図 2

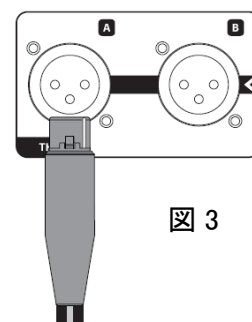


図 3

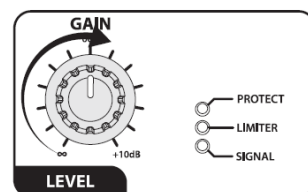


図 4

各部の名称

1. LINE INPUTS (D1200)

ステレオ・ライン入力（バランス XLR/フォン）です。チャンネル A、B の信号は内部アンプに入力される前にミックスされます。

2. THRU (D1200)

フルレンジ・スルー出力（XLR）です。別のサブウーハーや、メイン PA スピーカーに接続します。

3. LINE INPUTS (D1500)

ステレオ・ライン入力（バランス XLR/フォン）です。チャンネル A、B の信号は内部アンプに入力される前にミックスされます。

4. LINE INPUTS (D1500)

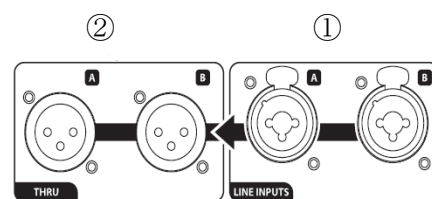
ステレオ・アンバランス RCA 入力です。チャンネル A、B の信号は内部アンプに入力される前にミックスされます。

5. THRU (D1500)

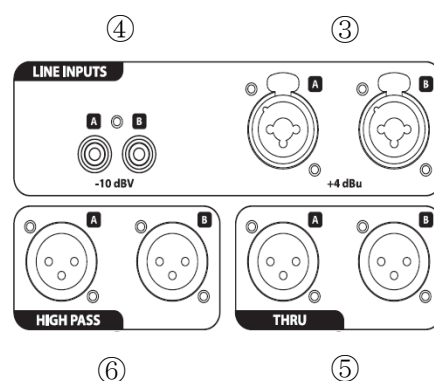
フルレンジ・スルー出力（XLR）です。別のサブウーハーや、メイン PA スピーカーに接続します。

6. HIGH PASS (D1500)

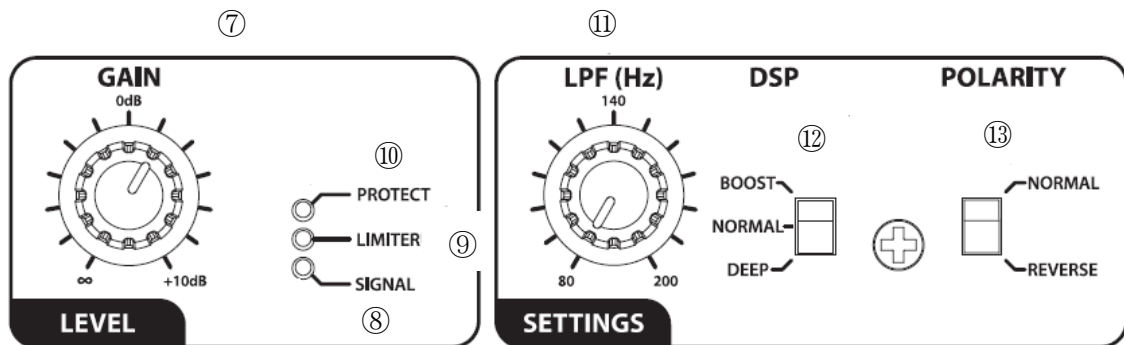
ハイパス・スルー出力（XLR）です。ローパスフィルターを通して出力され、メイン PA スピーカーに接続します。



Auro D1200



Auro D1500



7. GAIN

内部パワーアンプへの入力レベルをコントロールします。このコントロールは **THRU** 出力には影響しません。

8. SIGNAL LED (緑)

入力信号があるとき、点灯します。

9. LIMITER LED (黄色)

アンプがクリッピング・ポイントに近づいたとき、点滅します。

この場合、LED が消灯するまで、またはシグナルピークのときに時々点灯する状態になるまで、GAIN を下げてください。

10. PROTECT LED (赤)

アンプがオーバーヒート、または他の問題が発生したときに点灯します。入力レベルが高すぎる場合、アンプは自動的にリミットをかけて出力を下げます。LED が消灯するまで GAIN を下げてください。

11. LPF (Hz)

ローパスフィルターを調整します (80Hz - 200Hz)。この設定は **THRU** 出力には影響ありません。

12. DSP

3 種類の EQ カーブ (NORMAL、DEEP、BOOST) から 1 つ選択することができます。

NORMAL : 標準周波数特性に設定します。殆どの用途に使用できます。

BOOST : 100Hz の周波数を強調して、パンチのあるサウンドを作ります。キックドラムの音域を強調します。

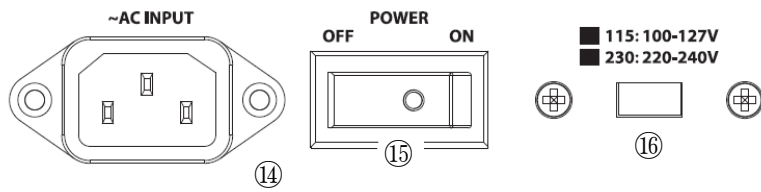
DEEP : 低域を拡張し、サブウーハーの音域を広げます。

13. POLARITY

アンプ信号の位相を変えます。

NORMAL : 信号に変化はありません。

REVERSE : 信号の位相が 180 度変更されます。この設定は **THRU** 出力には影響ありません。



14. AC INPUT

電源コネクター。IEC 電源ケーブルを差し込みます。

15. POWER

電源を ON/OFF します。

サブウーハー・モノラル・セッティング

サブウーハーには殆どの用途において、モノラル・セッティングが使用されます。サブウーハーから出力される低音は通常、無指向性です。低周波は波長が長く、拡散するのにかなり広い空間を取るため、相当広い部屋にいない限り、左右どちらから来ているかを聞きわけるのは困難です。以上から、ベース音源は殆どモノラルでミックスされます。

本製品とミキサー、サテライトスピーカーを組み合わせてモノラルシステムをセットアップする

1. ミキサーのマスターを最低レベルまで下げます。
2. ミキサーの左出力を本製品の LINE INPUTS A に、右出力を B に接続します。
3. THRU 出力 A (左) を左側のサテライトスピーカーに接続、B (右) を右側に接続します。D1500 の場合、High Pass (A)、(B) を使用すると外部でクロスオーバーを調整する必要がありません。
4. サテライトスピーカーの音量レベルを通常使用するレベルまで上げます。MP3 プレイヤーなどの音源を再生して音量をチェックします。
5. サブウーハーの LEVEL を上げて十分な低音が得られることを確認します。
6. ミキサーのレベルを変えてサブウーハーがそれに追従するか確認します。



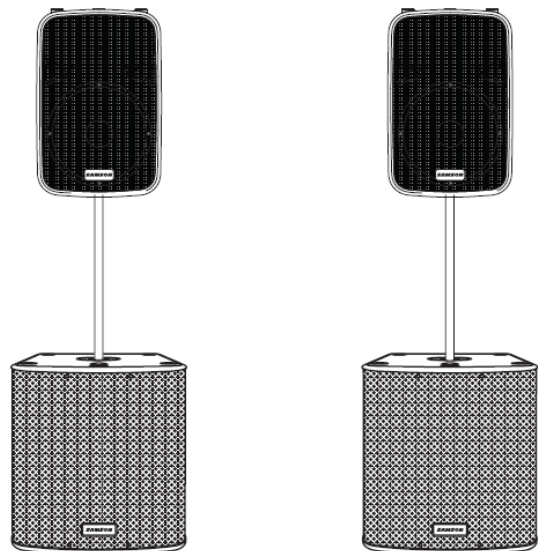
サブウーハー・ステレオ・セッティング

2 台以上のサブウーハーをステレオで使用することができます。また、THRU を使用してサブウーハーを連結することもできます。

ステレオ・フルレンジ・システムを作るにはサブウーハーを 2 台とサテライトスピーカー 2 台と組み合わせます。

D1200、または D1500 を 2 台使用し、ミキサーとサテライトスピーカー 2 台を組み合わせでセットアップ

1. ミキサーのマスターを最低レベルまで下げます。
2. ミキサーの左出力を本製品の **LINE INPUTS**A に、右出力を **B** に入力します。
3. **THRU** 出力 **A** (左) を左側のサテライトスピーカーに接続、**B** (右) を右側に接続します。D1500 の場合、**High Pass** (A)、(B) を使用すると外部でクロスオーバーを調整する必要がありません。
4. サテライトスピーカーの音量レベルを通常使用するレベルまで上げます。MP3 プレイヤーなどの音源を再生して音量をチェックします。
5. サブウーハーの **LEVEL** を上げて十分な低音が得られることを確認します。
6. ミキサーのレベルを変えてサブウーハーがそれに追従するか確認します。



ローパスフィルター (LPF)

LPF (Low Pass Filter) を使用してサブウーハーをサウンドと部屋の広さに合わせてチューニングすることができます。LPF はサブウーハーのクロスオーバーを 80Hz - 200Hz の間で設定できます。サウンドシステムをセットアップするとき、下のガイドラインに従って一番下の周波数を使用してください。しかしながら、最終的には、常に実際にサウンドを聴いて確認してください。

最終的にはサブウーハーを他のスピーカーと組み合わせてシステムの周波数領域を拡張します。ただし不自然なミックスになったり、サブウーハーとメインスピーカーが同じ周波数領域の音を出したり、低域が重複したり、バランスの悪いミックスを作ってしまうことがないように調整する必要があります。

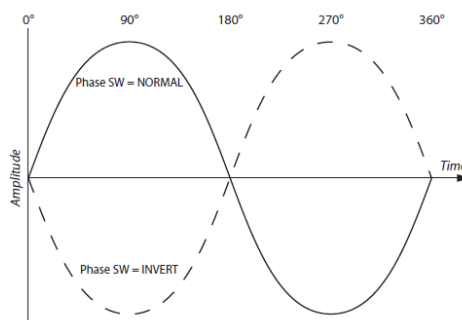
調整ガイドライン

最初にスピーカーキャビネットの周波数特性を使用することから始めます。サブウーハーの LPF を調整してサテライトスピーカーが出力する一番下の周波数に合わせます。

サテライトスピーカーが大型の 12 インチや 15 インチなら、LPF を 80Hz に設定してください。小型の 8 インチや 10 インチなら、100Hz に設定してください。もし発信器が使えるなら (スマートフォンやタブレットで利用できる無償の発信器があります) ゆっくり 400Hz から 40Hz までスワイプしてして、サブウーハーとサテライトスピーカーがミックスする音を聴いてください。LPF を調整して、もっともスムーズな周波数特性を見つけてください。もし、発信器がない場合は、安定したベースラインとキックドラムがある曲を使用して、LPF を調整することもできます。

スピーカー極性

スピーカーは電気信号を振動に変えて空気を振動させることにより音を出します。スピーカーシステムをセットアップするとき、極性を合わせなければ、音を打ち消し合って音の定位が悪くなります。これを防ぐため、最終的には全てのスピーカーの極性を合わせる必要があります。これにより可聴域全体に渡って均等なサウンドが聞こえるようになります。サブウーハーがフルレンジスピーカーと位相が



ずれていた場合、低音が減衰したり、低域周波数の打ち消し合いが起こります。この現象はタイミングが非常に微妙で、音の空白を作ったり低域を消滅させたりします。

理想的にはサブウーハーがサテライトスピーカーと同じ平面上にあるべきです。実際は PA をセットアップするとき、スペースの問題やスピーカースタンドの種類、スピーカーキャビネットの形などにより、困難であることは良く知られています。これらの問題を克服するため、本製品には **POLARITY** スイッチがあり、音源に関してサブウーハーの極性を反転させることができます。これにより、サブウーハーを他の PA システムと同期させる、または 180 度位相をシフトさせることができます。

サブウーハーの音が PA システムと同期しているかをチェックするには、低音が強調された音源をスピーカーシステムから再生してみます。サブウーハーとメインスピーカーから音が全体的にクリアに聴こえ、かつ低音が満足できるレベルに達していると判断できる位置に立ちます。サブウーハーの **POLARITY** スイッチを **REVERSE** に切り替えて位相を 180 度反転させます。音を確認し、元に戻します。切り替え前と後の低音のレベルを比べてください。低音が強調されている側が正しい設定となります。可能ならば、聴取位置からサブウーハーを近づけたり、遠ざけたりしながらサブウーハーとサテライトスピーカーの位相に関して詳細設定を行います。

SAMSON®